

I アカペラの響き

Ave Maria (T.L.de Victoria)
Sicut cervus desiderat (G.P.da Palestrina)
A Prayer of Saint Patrick (J.Rutter)
Ave Maria (J.Busto)
O Magnum Mysterium (M.Lauridsen)

～ 休憩 (10分) ～

II 「美ら島のうた」～沖縄からの便り

涙そうそう
詞/森山良子 曲/BEGIN 編曲/森友紀
童 神
詞/古謝美佐子 曲/佐原一哉 編曲/森友紀
島人ぬ宝
詞/BEGIN 曲/BEGIN 編曲/森友紀
月ぬ美しゃ
八重山民謡 編曲/京田誠一・Tsing-moo
島 唄
詞/宮沢和史 曲/宮沢和史 編曲/森友紀
花
詞/御徒町颯 曲/森山直太朗 編曲/ Tsing-moo

～ 休憩 (15分) ～

III 信長貴富 混声合唱曲集 「旅のかなたに」

しあわせよカタツムリにのって
詩/やなせ・たかし
歌
詩/谷川俊太郎
それは
詩/長田弘
足
詩/寺山修司
旅のかなたに
詩/室生犀星

団員募集

わたしたちと一緒に歌いませんか！

旭混声合唱団は合唱の好きな人であれば、
どなたでも入団していただけます。

練習会場 旭丘公民館
(尾張旭市大久手町上切戸 70)
練習日 毎週土曜日または日曜日
時間 午後 7 時～9 時

※いつでも見学できます。
一度遊びにおいでください♪
※ホームページにも情報満載です。

URL <http://www.asahikonsei.com/>

旭混声合唱団 第 7 回演奏会

～旅のかなたに～

2008 年 9 月 7 日 (日)
14:00 開演 (13:30 開場)

尾張旭市文化会館ホール

主 催
旭混声合唱団

後 援
尾張旭市・尾張旭市教育委員会
瀬戸市・瀬戸市教育委員会
長久手町教育委員会
愛知県合唱連盟・朝日新聞社



♪ ♪ 団員一同 ♪ ♪

ごあいさつ

本日は私たちの演奏会によろこそおいで下さいました。団員一同厚く御礼申し上げます。

本日のプログラムは、『ア カペラの宗教曲』『ポピュラーな沖縄の曲』『新進の作曲家の曲集』と変化に富んだものとなっています。それだけに団員にとってはクリアすべき課題が多くありました。しかし、神谷先生の合唱に対する情熱に刺激され、週一回の練習ではもの足りず、特別練習や自主的なパート練習を重ねて参りました。
本日はその成果を精一杯発揮し、心をこめて歌いたいと思います。
どうぞお聴きください。

団長 岩本裕之

旭混声合唱団 団歌

作詞・作曲 神谷伸行

昇る朝日の 光のように
まぶしく強く 輝ける
歌声は響く 心に深く
あふれるほほえみ ハーモニー
歌え いざ 高らかに
旭混声

緑の森に 風わたり
ひまわりのごと 瞳を上げて
あたらしき歌に 心あつめる
遙かな未来に 夢描き
わき上がれ 燃ゆる歌
旭混声

曲 目 紹 介

I ア カペラの響き

第 1 ステージは「ア カペラの響き」と題して、16 世紀中頃そして 20 世紀と、時代を超えた無伴奏宗教音楽をお送りします。短い味わい深く、多くの人に愛される作品を集めてみました。

- 1. Ave Maria (ヴィクトリア 1548 年頃～1611 年)**
「スペインのパレストリーナ」と呼ばれたヴィクトリアは、半音階的和音をよく用いた、神秘的な情熱と迫力の漂う作風で知られている。
- 2. Sicut cervus desiderat (パレストリーナ 1525 年頃～1594 年)**
パレストリーナの作品は、美しい旋律や和声、リズムを巧みに織り交ぜた清澄さ、荘重さゆえに理想的な教会音楽とされている。今日の曲は「神よ、鹿が谷川の水を慕いあえぐように、私の魂もあなたを慕いあえぐのです。」と歌う。
- 3. A Prayer of Saint Patrick (ラター 1945 年～)**
イギリスの作曲家ラターは、宗教合唱曲を多数書いているが、明るくポップなメロディー、親しみやすいサウンドが特徴で、日本では 1980 年代後半から歌われ始め、今なお人気を博している。今日歌う作品はその特徴からはやや外れるが、アイルランドにキリスト教を広めた聖人パトリックの祈りを歌うものと思われる、敬虔な愛すべき小品である。
- 4. Ave Maria (ブスト 1949 年～)**
ブストはスペインのバスク地方の生まれ。大学で医学を学ぶが、以後独学で作曲を学び、宗教合唱曲を数多く発表している。Ave Maria では、美しいメロディとハーモニーで聖母への敬虔な信仰心が、時には劇的に表現されている。
- 5. O Magnum Mysterium (ローリセン 1943 年～)**
ローリセン（と読む？）はデンマーク系アメリカ人作曲家。この「おお、大いなる神秘」は彼の代表作と言ってよいだろう。半音が同時に響いたり、あるいは頻繁に二度で重なったりするが、これが独特のきらきらしたサウンドを生み出している。

II 「美^{ちゆ}ら島のうた」 ～沖縄からの便り

- 1. 涙そうそう**
優しく穏やかな中に切なさを感じる曲。夏川りみの歌。森山良子が、ライブで共演した BEGIN に沖縄の曲を依頼、若くしてこの世を去った兄を想う歌詞をつけたもの。題名は沖縄の言葉で「涙がぼろぼろこぼれ落ちる」と言う意味だ。
- 2. 童神**
天の子守歌（みんなのうたバージョン）。作詞の古謝美佐子が初孫の誕生に際して歌ったもので、とても優しくあたたかい子守唄である。
- 3. 島人ぬ宝**
明るく晴れやかな、元気が湧いてくる一曲。BEGIN の歌。
- 4. 月ぬ美しや**
八重山地方に伝わるわらべうた。「月の美しいのは十三夜・・・/月よ 分け隔てなく照らしてください・・・/花を取るのにこと寄せて恋しい人を訪ねよう」と歌う。あやしく美しい、神秘的な雰囲気を持ったアレンジで。
- 5. 島唄**
「島唄」とは奄美諸島の方言で「郷里の民謡」を意味する。1993 年 THE BOOM が発表して 150 万枚のヒットとなった。
- 6. 花**
中（あたり）孝介の歌。中孝介は奄美大島の出身で、2000 年奄美民謡大賞新人賞を獲得、甘い声と独特の節回しで人気を呼んでいる。「花のように ただそこに咲くだけで美しくあれ/人は今 それぞれの花 心に宿す」と歌う。

III 混声合唱曲集「旅のかなたに」

～作曲家 信長貴富氏自身の解説（一部） 「旅のかなたに」（カワイ出版）より～

- 1. しあわせよカタツムリにのって**
詩はやなせ・たかしの『愛する歌 第三集』に所収。カタツムリの歩みのような、穏やかなテンポによるア・カペラ作品。
- 2. 歌**
谷川俊太郎の詩集『minimal』から。小川のせせらぎや風が木々を渡る音そのものが音楽なのだと語る谷川氏らしい「うた」だ。淡いハーモニーと透明なピアノの音色の中に、清冽な詩句を浮かべせた。
- 3. それは**
長田弘著『心の中にもっている問題』から。ピアノ・パートに多用されている二度の響きの中に「日の光り」がきらきらしているのが見える。各声部は光りを運びながらのびやかに旋律を紡いでいく。
- 4. 足**
さびしい足跡のように置かれていくピアノの響きと、独白のように淡々と歌われる合唱。詩は寺山修司の『僕が男の子だった頃』に所収。
- 5. 旅のかなたに**
室生犀星『鳥雀集』に所収。悲しみの中にあっても旅のかなたを指さし、前進しようとする力強い足取りを思いながら作曲した。文語体の引き締まった語感が、音楽に新鮮な響きを与えている。

どの詩にも喜び・悲しみ・絶望・希望のあいだで、それでも生き続けようとする人間の姿を読み取ることが出来る。歌う理由がそこにはある。歌わずにはいられないという衝動を、一音一音に託しながら作曲した。

以上 神谷伸行

プロフィール

指揮 神谷伸行

名古屋市出身。同志社大学文学部英文学科卒業。在学中はグリークラブにおいて指揮者として活躍、指揮法及び編曲法を福永陽一郎氏に師事した。卒業後は声楽を平野忠彦氏に師事、ドイツリートからオペラ、コンサートアリア、日本歌曲まで幅広く薫陶を受ける。その後大学男声合唱団の指導を経て現在に至る。ルネサンス宗教作品から現代曲に至るまで幅広く取り組み、「ことば」を大切に、歌う側も聴く側も共感・連帯できるあたたかい音楽作りをめざしている。

ピアニスト 石川ひとみ

国立音楽大学卒業。ピアノを深田嘉子、尾高節子、奥田京子、池澤幹男の諸氏に、室内楽、器楽伴奏をアドリアン・コックス氏に、チェンバロを中野振一郎氏に師事。名フィル各奏者をはじめ、著名アーティストと多数共演。また合唱指揮者として新実徳英、吉村信良、関屋晋との共演経験を持つ。現在、岐阜大学、一般合唱団のピアニストを務める傍ら、主にアンサンブルピアニストとして、室内楽、伴奏、作曲家の新作演奏などで活動が続けている。

ヴォイストレーナー 毛利美奈子

名古屋音楽大学音楽学部声楽科卒業。現在、小林史子氏に師事。ソプラノ歌手として、(財)名古屋文化振興事業団・名古屋市主催の「フィガロの結婚」、「天国と地獄」、知立市文化会館パティオ池鯉鮒開館一周年記念特別企画「ヘンゼルとグレーテル」、長久手町文化の家主催「ラ・ボエーム」等のオペラやベートーヴェン、モーツァルトの宗教曲のソリストとして出演し、好評を得る。

